



“本物”に学ぶ

校長 前田 倍成

毎年、文化庁では「学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業」を展開しており、その一環に「学校巡回公演」が位置づけられています。

本校では、令和6年度に「講談」、7年度は「オーケストラコンサート」、そして今年度は「演劇ミュージカル」と、大変有り難いことに3年連続で巡回公演を実施できました。本公演のミュージカルでは、6年生15名が実際にステージに立つ経験もしたんですよ。

文部科学省は、子どもの非認知能力の向上や豊かな人間性の育成を目指し、令和4年に「子供の体験活動推進宣言」を発表しています。自然体験や社会体験と並び、美術館・博物館の訪問や伝統文化の継承等の「文化的体験」を非常に重視し、全国的な機会の拡充を図っています。

芸術、音楽、伝統芸能など、文化芸術に触れるリアルな体験の価値は、感性や表現力、他者への共感力といった、数値化しにくい能力、いわゆる非認知能力の育成につながることが期待できるところにあります。また、地域の伝統行事や文化財に直接触れることで、日本の歴史や文化的背景への理解を深め、郷土愛が養われることも期待できます。

本校でも太鼓クラブや日本文化クラブで子どもたちが伝統文化を体験的に学んだり、総合的な学習で、地域の祭礼や文化財・自然等を調べ、発信したりしています。先日は、県スクールシアターの影絵・シルエット劇（劇団角笛）を全校で鑑賞したところです。

とても便利で効率的なデジタル化が進む現代において“本物”の芸術や文化財を「見て、触れて、感じる」という実体験には、こうした大切な意味があるわけです。

【トキの放鳥】

5月31日（日）、羽咋市で「トキ放鳥記念式典」及び「放鳥式」が実施されたことは、報道等でも大きく扱われました。

本校代表として今村彩乃さん（6年生）が、式典に出席し『トキとつくる能登の未来宣言』を他校の児童とともに高らかに宣言しました。

式典後の放鳥式には、本校の6年生27名も参加しました。



トキ放鳥式の様子

そこで、代表の今村さんに感想を聞いてみました。

Q：「トキの知識は？」

今村：「授業などで学習したのでそれなりにありますよ」

Q：「代表になろうと思ったきっかけは？」

今村：「こんなことは人生で1回しか経験できなさそうだったので、是非やってみたいと思いました」

Q：「セレモニーに出てみた感想は？」

今村：「まず、貴重できれいだと思っていたトキが、想像と違って大きくて迫力があったのでびっくりしました。それから、他の学校の人たちと交流するときうまく話ができるかとても緊張しました。これからは、貴重なトキが生きられるように、私たちが協力し合っていきたいと思います。志賀町にも来てほしいです」



【水泳学習開始！】



水泳学習の様子（5年生）

6月5日（金）に6年生がプール清掃をしてくれたおかげで、11日（木）にプール開きをすることができました。

12日（金）に5年生が始めたのを皮切りに、どの学年でも続々と水泳学習が進められていきます。

今後、学校のプールが初めての1年生を、6年生がお世話しながら一緒に入る「なかよしプール」も計画されているそうです。

くれぐれも事故のない安全で楽しい水泳学習になるようにと願います。

— 保護者の皆様へ ～ クマにも気をつけて —

先週、羽咋市柴垣地内で、先日、鹿頭地区でクマの目撃情報がありました。全国では連日、クマ被害の報道があります。校区と隣接する地域での情報なだけに他人事ではありません。学校では、児童への指導とともに、保護者の方へもマチコミメールで注意喚起をお願いしたところですが、ご家庭でも身を守る行動について話し合ってくださいと幸いです。